



建交労

建交労鉄道

建交労鉄道

2025年9月16日
NO 193号
発行責任者
須藤清成

岩手農林支部交流会③函館：笑顔と 美味しさに包まれた2日間

建交労岩手農林支部の『支部交流会』が、9月15・16日に開催され、60名の仲間と一緒に楽しい時間を過ごしてきました！

ジンギスカンで乾杯！
初日のお昼は、レストランにある「函館ビヤホール」でジンギスカンを堪能。サッポロクラシックもほとんどに：と言いつつ、つつい飲みます。



ぎちゃうほど美味しかったです。
足湯でほっこり、間歇泉の癒しパワー
観光のスタートは「道の駅しかべ」間歇泉公園。地面から定期的に噴き出す温泉の迫力にびっくり！

その温泉が流れ込む足湯で旅の疲れを癒し、足も心も軽くなりました。

縄文のこころに触れる、土偶との出会い
続いて訪れたのは「道の駅縄文ロマン南かやべ」。国宝の土偶を眺めながら、函館に息づく縄文のこころに触れることができました。

海鮮居酒屋で大懇親会！イカの活魚に舌鼓
夜は海鮮居酒屋『いさり』で大懇親会！函館名物のイカの活魚珍味に舌鼓を



建交労 第27回定期大会が8月30・31日（土・日）に群馬県安中市ホテル磯部ガーデンにて開催され、須藤が出席しました。

今大会では、足立浩中央執行委員長あいさつ後、全労連委員長秋山正臣さんから来賓あいさつを頂き、2025年度の活動報告・一般会計報告・業務部会・階層別報告や2026年度の方針案され、活発な意見交換が行われ、2026年度の方針案が承認されました。

現場の声を反映した議論が多く、地域格差や最低賃金の課題に対する取り組み・組織拡大の重要性を改めて実感しました。（詳しくは月刊誌建交労に掲載されます）

スローガン大幅賃上げ・雇用と仕事を守る運動を広げよう。全組合員が参加する要求闘争・組織活動を今後の組合活動に活かし、より良い職場環境づくりに努めて、引き続き組合員のご協力をお願いいたします。

組織建設・要求闘争の強化を位置づけた大会

お知らせ		会	
建交労東日本本部第27会定期大会	日 時	9月27日（土）	13時
場 所	大宮ソニック805号		
盛岡地域労連定期大会	日 時	10月10日（金）	
場 所	県民会館会議室	18時15分	
建交労岩手本部第27会定期大会	日 時	10月26日（日）	10時
場 所	アイーナ会議室702		
建交労岩手本部交流会	日 時	10月25日（土）	19時
場 所	盛岡炭火居酒屋	原価市場	
盛岡市大通 白崎二番館2F	会 費	組合補助あり	
建交労11・6中央行動	国土交通省前宣伝	10時	

人間が健康に生きて行く為に193

身近に潜んでいる！ 有害アルミニウムから身を守る

アルミニウムは食品や調理器具、衣料品など、身近な製品に多くつかわれています。

軽くて便利なイメージがありますが、じつはごく微量でも体にたまると悪影響がある可能性があるのをご存じですか。どんな製品が該当するかを知り、それらを避けることである程度はリスクを下げられます。

アルミニウムを含む身近な製品例

- 食品添加物（膨張剤、着色料などの一部）
- 医薬品（胃腸薬、アスピリン製剤等）
- 調理器具（鍋、ボウル、トイレ、アルミ箔など）
- アルミパウチ（レトルト食品等）
- 日用品・化粧品（日焼け止め、制汗剤、口紅等）
- ワクチン（免疫原性を高める成分として使用）
- 水道水（浄水場での処理の過程で使用）

考えられるリスク

たまる場所 脳・毛髪・腎臓・子宮・骨

体内での吸収率は約1%であり、そのほとんどは排泄されるといわれますが、ごく微量でもたまると悪影響がある場合があります。

○脳にたまるとアルツハイマー病など

○母乳から発達障害、行動障害、胎児・乳児の脳神経への影響

排泄される場所 毛髪・母乳・尿と便 リスクを最小限にするには

- 適度な運動で血流を良くする
- ぬるめのお湯にゆっくり浸かる
- 腸内環境を整える
- 植物繊維、発酵食品、ミネラル、ビタミンが豊富な食事をする

アルミニウムを体のためこまないポイント

- レトルトパックは中身を出して温める
- 継続して使用するものはアルミニウム不使用を選ぶ
- 調理器具からの溶出に注意

アルミニウムは酸と反応するため、アルミ缶鍋やアルミ箔などは果物やトマト、酢などの過熱調理品の保存には使用しない

原発ゼロ RABモデル NO171

原発は高く、これまでも多くの政府補助金が国民からは見えにくい形で供与されており、それは再エネや省エネに対する補助金の比ではありません。そのような中、実は、すでに現状において他の電源に比較して

発電コストが最も高く、さらに高騰するリスクがある原発建設には、既存の原発補助金や制度でも足りない対応できないというところで新たに考案されたのがRABモデルです。

すなわち、RABモデルの導入自体が、今後はより巨額の補助金が原発の建設・維持には必要となることを証明しています。

英国や日本において政府がRABモデルを導入しようとする理由は、「発電事業者や投資家が要求するから」という単純なものです。原発は、電力市場での競争力

は高く、リスクやコストをほぼ全て需要者（国民）に転嫁しなければ事業者や投資家が集まらない超大型不良プロジェクトなのです。

再エネ新設あるいは再エネ新設と蓄電池を組み合わせたものと同程度となっています。実際に、過去10年間で太陽光発電は約10分の1、風力発電は約3分の1に、蓄電池の価格も、約3分の1になりました。一方、原発の新設コストは数倍になり、運転コストも大きく上昇しています。

最低賃金改定の光と影

引き上げの裏で広がる地域格差と発効遅延

今年度の最低賃金改定は、全国的に大幅な引き上げが行われた一方で、発効日の遅れが深刻な問題として浮上している。格差は275円に拡大した。

暮らしの土台が揺らぐ今、制度の信頼性をどう守るか。地域格差と発効日の遅れの実態全国加

発効日は例年10月



岩手県は79円引き上げで1031円に改定。発効日は12月1日と、例年より約2か月遅れ。

暮らしの土台が揺らぐ時代に、最低賃金はどうかあるべきか。問題点と背景発効



までは、最低賃金の「引き上げ」そのものが空回りしてしまう危険もある。

制度改善のための主なポイント
発効日の統一と早期化最低賃金の改定は原則30日以内に発効されるべきなのに、今年度は半年以上遅れる地域も。春闘の結果を非正規雇用者に早く届けるためにも、全国一律で原則30日以内の発効を徹底し、全国一律で10月発効などのルール化が必要。

引き上げと発効遅延が生む新たな格差
地域格差の是正現在、最高額と最低額の差は275円。地域の生活費や物価を考慮しつつ、全国平均に近づけるための段階的な調整が求められる。

御巢鷹の520の霊は眠れない
今から40年前1985年8月12日航123便 群馬御巢鷹の峰に墜落 相模湾上空で尾翼を失い横田基地に南から緊急着陸しようとするが、北から入れとの指令進路を立てなおしつつある時ミサイルで撃たれて墜落した。 事故原因の圧力隔壁説は機内で急減圧が起きなかったことを説明できない。 自衛隊納入前の自衛艦が相模湾上空で飛ばしていたミサイル訓練のための無人標的機が日航123便の尾翼に右から衝突したとの説。 総理大臣中曽根康弘は自衛隊に傷がつくことは何としても避けたかった。



不可欠で、労務トラブルを防ぐために、専門家による相談窓口の充実も必要です。最低賃金は誰のためにあるのか？

政治的透明性の確保財界の意向で発効日が遅れるような事例は、制度の公平性を損なう。審議会の議事録公開や構成の見直しで、公平性を担保する必要があります。 「最低賃金は暮らしの土台」、その土台がしっかりとっていないと、どんなに引き上げても空回りになります。

最低賃金改定の落とし穴
中小企業への支援強化最低賃金引き上げに対応するため、政府は以下の支援策を拡充中「業務改善助成金や二導入補助金」などの制度をもつと使いやすく。政治的透明性の確保が重要です。



企業の制度整備支援賃金体系の見直し、就業規則の改定、労働時間管理の徹底など、企業側の対応も必要です。

の間の粘着力を低下させ、空転や滑走を引き起こす。 空転は遅延や運休の原因となり、滑走は信号冒進や駅でのオーバーランなど、安全上の重大な問題を引き起こす。 落葉が踏み潰されてレールに付着し、タンニン鉄を含む黒色皮膜が形成されることで、粘着力が著しく低下する。 実験では、湿潤条件下でこの黒色皮膜がペースト状になり、空転・滑走が顕著に発生することが確認された。

紅葉の美しさの裏で起きる機関士の苦悩

秋が深まるにつれ、鉄道の現場では「落葉による空転」の季節が始まります。線路に積もった落葉が機関車の車輪とレールの間で圧縮され、樹脂状の油分がレール表面に付着することで、車輪が空転しやすくなるのです。

この現象は、列車の速度低下やタイヤの損傷、さらには遅延や登坂中の停止といったトラブルを引き起こすことがあります。特に登り坂では、列車が立ち往生し、救援列車の出動が必要になるケース

「空転・遅延」救援出動：秋の鉄道現場で起きていること」
機関士は、空転防止のために砂をまいて摩擦を高めるなどの対策を講じながら、安全運行に努めています。

しかし、根本的な予防策として、線路沿いの樹木の伐採が重要です。紅葉の美しい季節ではありますが、鉄路の安全を守るため、関係機関には伐採の協力をお願いしています。

鉄道総研の研究报告

山間部の線区では、落葉が車輪とレール

JR貨物では、線路使用料を支払いなから全国各地で貨物列車を運行しております。乗務員は「安全・安心」を基本理念とし、荷主の大切な貨物を確実に届けるため、日々最大限の努力を重ねています。

安全運行に支障をきたす事象が増加しています。信号機が見えない現場で、乗務員が守る「安全・安心」これらの課題に対し、組合からは関係機関へ改善の申し入れを継続的に行っていますが、未だ対応がなされていない箇所も存在しています。乗務員と関係機関が連携して築く安心の鉄路

安全運行の維持は、乗務員の努力のみならず、線路周辺の環境整備が不可欠であると考えます。組合としても、こうした現場の声を重く受け止め、早期の改善を強く要望しています。今後、乗務員が安心して業務に従事できる環境の整備に向け、引き続き関係機関との連携を図っていきます。



「線路の安全は誰が守る？」
運転業務において

8月15日、盛岡は太陽がさんさんと輝き暑かった。お日さまに会って、気温を下げてとお願いすることにしました。

お日さまはどこに住んでいるのだろう。わたしは夕日を追いかけ



※このお話は落語家小さんのまくらを

（秋田）駒に国見登山口から登った。途中で暗くなつたが、ラジオ深夜便の音量を上げ、熊に気をつけながら、ゆっ

くりと進んだ。あと少しで男岳頂上だ。すると後からお日さまが出てきた。

細川忠雄

秋の落葉が列車を止める？空転トラブル